

1-A-11.
 原材料の共同センター運用と工場への共同輸送

<ユニ・チャーム(株)>

1. 概要

項目	内容
物流共同化のタイプ	異業種との配送の共同化
主な対象貨物	不織布、ゴム、糊
導入時期	1993年

2. 背景（実施理由、狙い、導入の経緯）

1) 実施理由

- ・ 在庫量の圧縮
- ・ 荷受負担の軽減

2) 狙い

- ・ 工場の資材スペース縮小
- ・ 荷受け作業軽減
- ・ 在庫金額圧縮

3. 対策効果

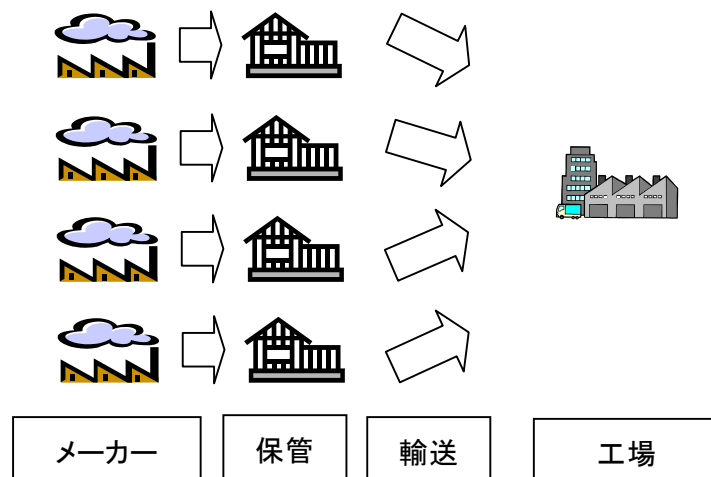
- ・ 現状荷量にして、2,000坪の工場スペースが減った
- ・ 工場荷役作業の日々負荷が大きく変動していたのが、平準化出来た
- ・ 共同センターへかんぱん発注で行えるようになり、在庫管理も簡単になった

4. 事業内容

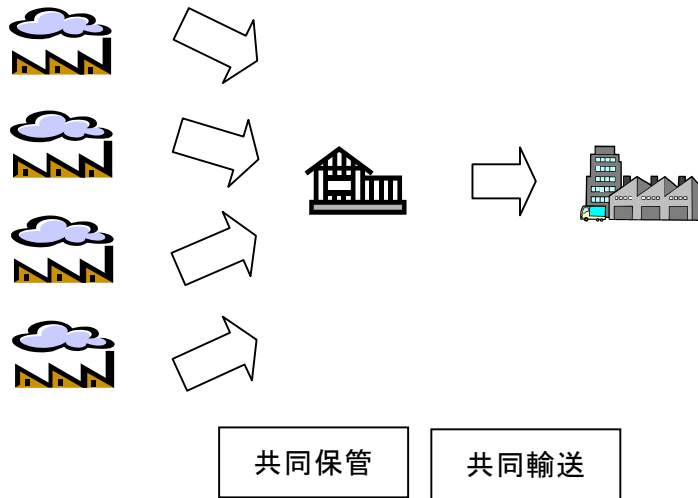
- ・ 原材料メーカー様 20 数社の共同センター運用と共同輸送

対策実施前後の共同物流フロー

実施前



実施後



5. 課題

- ・ 共同保管、輸送を行うに当り、業者選定と自社の関わり方を明確にしておく必要がある。
- ・ 保管スペースをメーカー別に固定してしまうと、材料の種類、数量の変動に対応出来なくなる。
- ・ 定期的に運用実態を全メーカーと共有する場を設ける事が必要である。